

# 運転代行 / フロント

マロクマ

⑨

と随伴車による白タク行為排除に汗を流す。目指すは沖縄を代行適正化のトップ県にする」と。

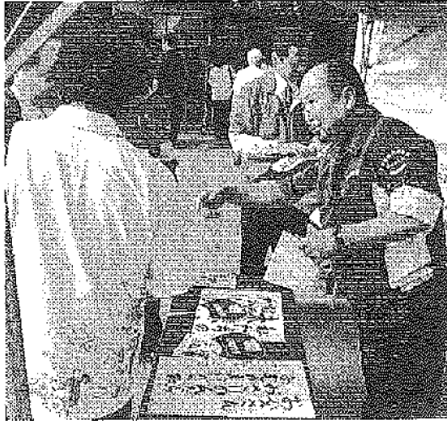
運転代行認定事業者数が約800社、全国最多の沖縄。新規(沖縄市)の新崎勝吉代表だ。参入の増加とともに悪質な営業も目に余る中、事業健全化に熱

今年になって行政が白タク撲滅に動き出し、新崎代表の活動に追い風となっている。沖縄総合事務局の呼びかけで警察、県ハイヤー・タクシー業界、運転代行業界が集まり、白タク防止キャンペーンに乗り出した。7月以降、会合を重ねており、新崎代表は「行政とのパイプができた」と意義を強調する。

## 白タク撲滅活動に精力

### 「沖縄を適正化トップ県に」

沖縄の飲酒運転根絶県民大会会場に参加者に運転代行をPRする新崎代表(右)



### 新崎運転代行(沖縄県沖縄市)

代行料金は、採算ラインという3千1000円を10年以上維持。1千200円の低価格事業者は淘汰され始めているようだ。一方でA・B間輸送が課題。地元ではサービスの一端で白タクが行われ、違法行為への意識が薄いという。

白タク行為の排除には事業者だけでなく、利用者にも啓発が必要。「随伴車両には客は乗れ

ない」と記した業界作成のチラシの配布に力を注ぐ。毎年10月開催の「飲酒運転根絶県民大会(県、県議会、県警共催)」に支部の総力を挙げて参加、代行の利用と白タク撲滅を呼びかけている。

「飲酒運転で悪い部分が目立つだけに、運転代行に関しては沖縄が47都道府県で一番良い県にしたい」と、業界適正化に意欲を燃やす。